（仮称）余呉南越前第一・第二ウィンドファーム発電事業
住民説明会（第１回）　議事要旨

１．日時

2026 年４月５日（日）午前１０時００分～午後１２時００分

２．場所

びわ文化学習センター（滋賀県長浜市難波町５０５番地）

３．出席者

株式会社グリーンパワーインベストメント

（陸上風力事業開発本部　事業開発第２グループ）

柿岡一躍

牧野巧

松出尚也

（開発推進本部　環境アセスメントグループ）

東郷有城

（陸上ＥＰＣ本部　陸上土木エンジニアリンググループ）

佐藤忠史

４．議事概要

（１）　事業者冒頭挨拶

・　日頃より本事業にご理解、ご協力をいただき、御礼を申し上げる。

・　本説明会の開催の経緯については、昨年、一部の市民の方から、事業の進捗状況に関する周知の不足を指摘する請願が、長浜市議会に提出され、市議会で可決されたことに加えて、環境影響評価準備書の手続から約３年が経過していることを踏まえ、現時点で事業概要および現在の状況について、住民のみなさまに広くご説明する必要があると判断したもの。

・　説明会は、長浜市や請願を行った団体と調整の上で、４月に長浜市内の３つの会場で実施。

（２）　事業者による説明

※資料「(仮称) 余呉南越前第一・第二ウィンドファーム発電事業　住民説明会資料」を配布し、同じものを会場前方のスクリーンに投影しながら説明。

【会社概要】

・　当社は、風力発電事業をメインに再生可能エネルギーの発電事業を行っている。経営陣は国内外で 30 年以上、再生可能エネルギーに携わってきた経験がある。2023 年には、主要株主にＮＴＴアノードエナジー株式会社および株式会社ＪＥＲＡを迎え、より長期的な視点で発電事業を行っていくことを考えている。**（資料３頁）**

・　これまで全国各地で取り組んできた主な事業実績として、高知県の大月ウィンドファームおよび大洞山ウィンドファーム、東北地方のグリーンパワー住田遠野風力発電所やグリーンパワー深浦風力発電所のように、山の尾根部に風車を設置している案件、それから青森県のウィンドファームつがるのように、農地の一角に風車を設置している案件、さらに北海道の石狩湾新港洋上風力発電所のように、海の上に風車を設置する洋上風力発電所まで、当社は、それぞれの地域の立地条件に応じて、さまざまな環境下で風力発電所を建設・運営してきた。高知県の大月ウィンドファームは太平洋に面していて、台風の進路によって比較的、風や雨の影響を受けやすい地域に位置しているが、運転開始から 20 年近くが経過した現在に至るまで、適切に維持管理を継続して行っており、大きな土砂崩れなどのトラブルは発生していない。**（資料４～５頁）**

・　当社が特に重視しているのが、再生可能エネルギーを通じた地域との協働。「風車を建てること」と「地域振興」を両輪で考えていくこと、これを私たちの企業理念としている。そのために、地域との連携として、発電事業を行うことで得られる売電収入の一部を、観光や農業、林業、教育など地域の特性を活かした取り組みに還元していく考え。地域振興の取り組みを考えるにあたって、私たちが大切にしている視点は大きく分けて「産業」「脱炭素」「普及啓発」。この３つの視点を重視して検討することにしている。**（資料６～８頁）**

・　これまで他の地域で実際に取り組んできた地域振興に関する具体的な事例として、島根県浜田市のプロジェクトは林業振興の事例。市の企業版ふるさと納税制度を活用し、地元産の木材を使った取り組みに関わってきた。また、青森県つがる市のプロジェクトは、農業振興の事例。農地の一角に風車を建てた案件で、地域の特産品であるメロンの通年栽培を目指した水耕栽培の実証試験事業に協力してきた。**（資料９頁）**

・　高知県大月町にある大洞山ウィンドファームでは、町役場や観光協会、道の駅などと連携し、風力発電所の施設を活用した見学ツアーやイベントの企画・運営、土産品の開発などに関わってきた。風車そのものを目的とするのではなく、観光資源の一つとして位置づけることで、地域を訪れる人が増え、地域の経済が少しでも循環することを目指した取り組み。また、教育振興については、私たちは事業を営む各地で、地域の教育機関と連携しながら、エネルギー教育やキャリア教育の観点で、出前授業や発電所の見学受け入れなどを行っている。**（資料 10 頁）**

・　事業を行っている地域の特産品を社内で販売する取り組みも続けている。発電事業を行っている地域の農産物や加工品などを当社の社員が直接購入する機会を設けることで、地域の産品を知るきっかけづくりや、ささやかながら地域経済への還元につなげてきた。立地地域のイベントや行事に社員が参加したり、地域の課題解決として微力ながら除雪や除草などの作業に協力したりもしている。**（資料 11 頁）**

【ベルク余呉スキー場に関する経緯および対応状況】

・　ベルク余呉スキー場、高時川流域、そして計画中の風力発電事業との位置関係について説明する。2024 年に災害復旧・是正工事を実施した主な箇所は、2022 年の豪雨で被災したスキー

場開発区域東側の「ゲレンデ跡地」「ゲレンデ下流部」「沈砂池」のエリア。一方で、風車は尾根部を中心に検討しており、過去に土砂崩れが発生したゲレンデ跡地や沈砂池のエリアには設置しない計画としている。（**資料 13～14 頁**）

※３Ｄの立体的な地図を会場前方のスクリーンに投影しながら、スキー場開発区域と風力発電事業として検討している区域の位置関係や尾根谷の状況について説明。（**資料 15 頁**）

・ 林地開発許可に係る是正対応については、ベルク余呉スキー場では、過去 20 年以上にわたって、過去のスキー場開発事業者による林地開発許可違反に対する是正工事が完了しないまま残されていたところ、当社は 2021 年、風力発電事業の検討とあわせて、この地域の長年の課題を解決する必要があると考え、林地開発許可の地位を承継した。その後、2022 年６月に当該違反を行った元事業者に代わって是正工事を開始。しかし、同年８月の豪雨で被災し、一時中断を余儀なくされた。そのため、滋賀県と是正工事計画の工法・仕様に関する協議を重ね、2024 年に変更計画を提出し、同年 12 月に是正工事を完了。その後も、当社が維持管理を継続して行なってきた。地域の問題ではあるが、過去の問題を他人事にせず、責任をもって取り組んできた。引き続き、今年の雪解け後も現場の状況を定期的に確認し、必要に応じて補修工事などの維持管理を継続していく。なお、このスキー場の復旧工事に時間を要し、本来の目的である風力発電事業の検討に注力することができず、風力発電事業の計画に大きな進展があまりなかったことから、この３、４年の間、現在に至るまで説明会を開催することができなかった。（**資料 16 頁**）

・ 現地の状況について各エリアの写真を用いながら報告する。ゲレンデ跡地エリアでは、2022 年８月の豪雨により、左の写真のとおり、ゲレンデの中央に水みちができ浸食されていたが、2024 年の是正工事によって、素掘り側溝の整備と緑化を実施。昨年の雪解け後には、融雪の影響で素掘り側溝に散乱していた倒木・U字溝の撤去を行った。雪解け直後の倒木・U 字溝の散乱状況については後で説明する。現在は写真のとおり、昨年の是正工事でゲレンデの両脇に吹付した種子も芽吹いてきており、緑化が進んでいる。（**資料 18 頁**）

・ 沈砂池エリアでは、2022 年８月の豪雨により、写真のとおり、土砂崩落が拡大したが、2024 年の是正工事で袋詰め玉石（パワフルユニット）による堰堤を設置し、土砂流出防止対策を施した。昨年の雪解けでは、特にパワフルユニットが崩れることなどもなく、沈砂池として機能を発揮している状況。（**資料 19 頁**）

・ 昨年の是正工事のエリア外になるが、スキー場進入路についても復旧工事を行なったので、参考までに写真で状況説明する。スキー場進入路については、写真のとおり、2022 年の豪雨で一部道路が崩落するも、2023 年から 2024 年にかけて復旧工事を行ったため、雪解け後の現在も異常はみられず、安定した状態を維持している。（**資料 20 頁**）

・ ゲレンデ跡地において、昨年の雪解け後に実施した対応について説明する。先ほど説明したゲレンデ跡地の素掘り側溝に散乱していた倒木やU 字溝の状況は写真のとおり。これらは素掘り側溝の排水の妨げになるため、昨年、雪解け後に速やかに除去を完了した。（**資料 21 頁**）

・ ゲレンデ跡地における昨年の雪解け後の補修対応について説明する。昨年の雪解け後の現地確認において、写真のとおり、素掘り側溝の洗堀が進行している箇所があるため、パワフル

ユニットによる補修を昨年 11 月に完了した。ちなみに現在、計画地については谷部にまだ雪が少し残っている状態のため、雪解け後の現地確認はまだ実施していない。今後、雪解け後の現地確認を行い、必要に応じて対応していきたいと考えている。なお、このような対応をしてきているが、現時点で、まだ風車の建設が決まっているわけではない。風力発電事業を検討するにあたり、地域が抱えている課題にも目を向けていく必要があると考えている。その一つとして、長年にわたって地域で課題となってきたスキー場跡地の問題についても、私どもとして真摯に向き合い、対応を進めてきた。このような私たちの取り組みは、地域の方々からも一定の評価をいただいている。今後についても、地域のみなさまや関係機関と相談しながら、責任を持って対処していきたいと考えている。**（資料 22 頁）**

【事業計画概要】

- 風車の配置計画は 2022 年時点の環境影響評価準備書で公表したもので、環境への配慮などを踏まえ、現在も見直しを行っている段階。そのため、風車の配置や基数については、今後縮小する方向で検討中。改変面積や森林の伐採面積は未定。**（資料 25 頁）**
- 風力発電機の資材の輸送、風力発電機の大きさについて記載している。主な環境への配慮の取り組みとして、改変面積の低減策を講じる。**（資料 26～29 頁）**

【環境影響評価に関する対応状況】

- 環境影響評価方法書の際のレイアウト（風車 50 基）、準備書の際のレイアウト（風車 39 基）として計画していたが、経済産業大臣勧告、滋賀県知事意見を踏まえ、鳥類や植生などが専門の学識経験者の方々で構成した「環境配慮検討会」を 2024 年 3 月に設立した。その後、同年 7 月に第 1 回環境配慮検討会を開催し、現在は、検討会の各委員へのヒアリングとあわせて、森林法や盛土規制法などの環境影響評価以外の条件についても検討を行い、それらの諸条件を踏まえながら風車の配置計画について再検討を進めている。今後は、これまでに整理してきた各意見や条件を踏まえ、配置計画見直しのレイアウトを再検討する予定。第２回環境配慮検討会の開催時期は検討中。**（資料 33 頁）**
- 2024 年 7 月に開催した第 1 回環境配慮検討会で示した、たたき台について記載している。**（資料 34～36 頁）**
- 開発のスケジュールについては、現在は環境配慮検討会において環境影響に係る検討を慎重に進めており、今後については、環境配慮検討会での議論を踏まえ、風車の配置計画を決めていく予定。配置計画が確定しないと後の工程に進めない。現時点では、風車の建設に着手する時期は決まっていない。**（資料 37 頁）**

【総括】

- ベルクスキー場跡地の是正工事については、旧スキー場跡地における是正工事、いわゆる復旧工事については 2024 年に完了。現在は、風力発電事業に係る林地開発許可について滋賀県と協議を継続している状況。

・　環境への配慮を踏まえた風車の配置計画の見直しについては、環境配慮検討会での議論を踏まえ、検討を行なっている。次回の検討会の開催時期については調整中。
・　着工時期については、配置計画が確定していないため、現時点では明確に定まっていない。現在は、関係機関との協議や検討を進めている段階。是正工事は完了したが、風力発電事業の実施が決まったわけではない。**（資料 39 頁）**

※2024 年に運転開始した青森県のグリーンパワー深浦風力発電所の紹介動画を会場前方のスクリーンで投影した。

（３）　質疑応答

※質問に限らず意見のみもあり。

ご発言者①

○　風力発電自体がダメだとは、まったく思っていないが、余呉町中河内という場所での計画は良くないと考えている。計画地は CO2 を吸収する豊かなブナ林があり、かつ貴重な鳥類に危険を及ぼすような事業は、長浜市の環境基本条例に違反している。
○　日本自然保護協会が全国 107 所の計画を調査した結果、この余呉の計画が環境への悪影響でワーストワンに選ばれている。また、日本生命は、環境に配慮したクリーン電力を調達すると表明している。こうした評価について、事業者としてどのように受け止めているか。

事業者回答①

○　ご指摘のレポートについては認識している。当該レポートは、公開されている環境影響評価図書を基に、当該団体の独自の視点と評価手法によって、全国の大型陸上風力発電事業を横断的に整理・分析したものであり、再エネと自然環境の関係について問題提起を行うものではないかと受け止めている。一方で、当該レポートは公開情報に基づく評価であり、過去に各事業者が実施してきた検討や、検討会での議論などは反映されていないものと認識。今後、専門家や行政機関、地域の住民のみなさまの意見を踏まえながら、当該レポートのご指摘も参考情報として受け止めつつ、事業計画の見直しや追加の検討を必要に応じて行っていきたいと考えている。

ご発言者②

○　再エネには大いに期待している。説明にあった第１回環境配慮検討会に参加し、この巨大開発が自然環境に与える影響の大きさを認識。特に鳥類については、渡り鳥のルートがこのエリアに重なるという話もあり、バードストライクや騒音や振動による生息環境の悪化が懸念される。
○　スキー場の荒れたところを整備してくれたこと、滋賀県の仕事でもあるのに貴社が引き受けてくれたことに感謝。豪雨に伴う土砂流出が再び起こるのではないかと懸念。計画自体を中止すべきではないかと感じるほど懸念。今後どのように環境配慮を行っていくのか。

事業者回答②

○　現在、環境配慮検討会において鳥類や植物の専門家の方々と、風車の基数や配慮の範囲を検

討中。風車の数を減らすことは、経済性に影響するため、調整中。現時点で事業の実施可否を判断する段階になく、今後の議論を踏まえてどうしていくべきか検討。

ご発言者③

- スキー場跡地を活用して、風力発電機を設置し、地権者に地代を支払うのだと思うが、この事業は、どのような収支構造で成り立つのか。
- 説明の中で、風車１基 4,200kW とあったが、どのような風況条件下で発電できるのか。深浦風力発電所の 79,800kW という規模が、東北電力管内の総発電量に対してどの程度の割合を担っているのか。他の地域の風力発電では、発電量が地域全体から見れば限定的で、あまり影響は大きくないという話も聞く。
- 2050 年に向けた温室効果ガス排出削減やゼロカーボンの考え方があるが、日本単独での温室効果ガス削減効果は限定的だという見方もある。メタンハイドレートなど環境への影響が比較的小さいとされるものもあるが、どのように考えるか。

事業者回答③

- 地権者への地代は、売電収入から支払う予定。
- 4,200kW とか 79,800kW といった数値は、瞬間的に発電できる最大の発電容量を示すもので、目安として風速 13～15m/s 程度で最大値に達する。実際には、常に最大値で発電しているわけではなく、風況に応じて時間ごとの発電量が積み重なって発電量になるという考え方。参考として、4,200kW の発電量は、年間で約 2,300 世帯分の年間電気消費量を賄える規模。深浦風力発電所の発電量は、一つの目安として、青森県内の電力消費量の数パーセント程度に相当。
- 日本だけが温室効果ガス削減を進めたとして、世界全体の気温上昇にどの程度の影響があるのかというのは、非常に難しい問題だが、国際協調も重要。メタンハイドレートなど他の技術との組み合わせも重要だが、まずは当社にできることとして、再エネの普及拡大に貢献していきたい。

ご発言者④

- 山頂部は地盤が脆く、そこに生えている木を切ると崩れやすくなるという話を聞いたことがある。そもそもスキー場が崩落した原因を分析しないと、同じような危険が生じないか心配。
- 風力発電機のメーカー、材質、基礎の造り方が知りたい。これほどの構造物を設置する以上、強い地盤まで掘削することがあると思うが、土壌や地下水にどう影響するのか。そのような点で調査や研究はしているか。
- 風車から発生する低周波によって、動物への影響を懸念。
- 撤去費用はどのように確保するか。

事業者回答④

- スキー場の崩落原因の分析は非常に重要。現場を確認し、行政機関や有識者の方々と協議する中で、過去の事業者による法令に適合しないような大規模な盛土や、勾配のきつい法面な

どの開発が見受けられ、それらが崩落につながったのではないかと認識。

- 風力発電機の基礎については、すべての設置箇所でボーリング調査を行い、その結果を踏まえ、基礎の形式などを設計。その上で、国の審査を受けなければ設置することができない。国内の主要メーカーは大型風車の開発から撤退していることから、本事業においては欧州メーカーの風車を想定。材質は部材ごとに異なるが、羽根は強度と軽さを両立させるためＦＲＰ（繊維強化プラスチック）が用いられている。
- 人が聞こえる音（騒音）については、環境影響評価で予測評価を実施。運転開始後も現場事務所を設置し、地域住民のみなさまの意見を伺いながら対応する。 動物への影響（熊や鹿など）については、他の事例で明らかな影響がなかったとの報告もあるが、地域差を考慮し、運転開始後も状況を注視し、必要に応じて対策を講じる。
- 撤去費用は、経産省のガイドラインに基づき、事業者が計画的に積み立てを行う仕組みがあるため、建てて終わりではなく、撤去まで見通した上で事業実施を検討。

ご発言者⑤

- 計画地は高時川源流に位置する重要な場所。
- 純国産のエネルギーをうたっているが、風車などの資材は海外から輸入。円安や物価高の状況下、採算性は厳しいと思われるが、事業の見通しをどのように考えているか。

事業者回答⑤

- 国内の主要メーカーは大型風車の開発から撤退していることから、欧州メーカーの風車を想定。
- 採算性は、円安、物価高騰などの要因により、予断を許さない状況であると認識。しかし、再エネの普及拡大と、スキー場をめぐる地域の課題解決のために、事業実現に向けた方策を引き続き検討。当社の案件で、事業検討から運転開始まで 16、17 年程度かかった事例もある。余呉の本事業も 2018 年ごろから本格的に計画検討を進め、すでに相当な時間をかけているが、会社として簡単にあきらめる考えはなく、スキー場跡地の管理の問題も含めて、責任感を持って対応していきたい。

ご発言者⑥

- 本事業で発電した電力は関西電力へ売電されると思うが、災害時に長浜市へ優先的に電気を供給したり、電力の地産地消をしたりできるか。
- 災害が激しくなる中で、風車が倒壊した事例を耳にするが、最大風速はどれぐらいまで耐えられる設計か。

事業者回答⑥

- 本事業は固定価格買取制度（ＦＩＴ）の認定を受けており、電力会社へ売電する想定。余呉や長浜で電気を活用できないかという声はあり、今後、長浜市や地域の関係者の方々と、災害時を含め、地域への供給のあり方について仕組みを検討していきたいと考えている。
- 風車は機種によって異なるが、目安として、瞬間的には約 70m/s の突風にも耐えられる基準で

設計されている。

ご発言者⑦

○　再エネに対する規制強化の流れと整合しているのか。釧路湿原周辺のメガソーラー建設をめぐる規制強化など、自然破壊型の大規模開発が選別される方向に政策が転換しているのではないか。将来の規制強化や支援縮小の可能性がある中で、事業リスクをどう評価しているか。

事業者回答⑦

○　現時点では、現行の各種法制度に則って検討を進める方針。本事業に関しては、環境配慮検討会の中で有識者の方々からさまざまなご意見をいただき、これまで現地調査や解析も重ねてきた。現地の状況に即して検討を深めていきたい。

ご発言者⑧

○　スキー場跡地は過去にも崩落が起きており、是正工事後も一部浸食した箇所についても説明があったが、そういった場所で開発することについての安全性を懸念。今後、想定外の事態が起きた際に、絶対に崩れないと断言できるか。

事業者回答⑧

○　スキー場跡地については、2022 年の豪雨災害も含め、過去に複数回の崩落が起きており、対策の難しい箇所であると認識。一方で、風車の建設予定地は山の尾根部であり、崩落したゲレンデの谷部とは異なる場所に位置しているため、直接その崩落箇所に風車を設置する計画ではない。

○　スキー場跡地の谷部は、是正工事は完了しているものの、これで終わりとは考えておらず、さらなる対策工事を検討。「絶対に崩れない」と断言はできないが、事業期間中は当社が責任を持って維持管理を実施。想定外の事態については、滋賀県と協議しながら対処法を検討することになる。

ご発言者⑨

○　資料の 18 頁のスキー場の崩落箇所について、そこだけが主な原因であるかのような説明がされていたが、過去の事業者の造成の影響について十分に説明されなかったと感じた。是正工事は中小規模の降雨には有効だが、2022 年のような豪雨に対しては不十分ではないか。

○　「真摯に向き合う」「責任感を持って」と説明していたが、事実と異なる説明をしていることについてどのように考えているか。

事業者回答⑨

○　是正工事は 2024 年に完了したものの、これで終わりとは考えていない。引き続き滋賀県と協議し、今後も必要な整備を行っていく方針。

○　説明の中で、「真摯に」「責任感を持って」と申し上げた点については、私自身、余呉町に居住し、計画地やその周辺において雨の翌日などに現地に確認に行ったり、さらに地域住民の意見も聞いたりしながら、本事業の検討を進めているところ。そういった意味でも、決して

事実と異なることを説明したつもりはなく、今後もしっかり対応していきたい。

ご発言者⑩

○　回答は不要で情報提供のみ。尾根部の地質は泥岩なので、尾根筋だから改変しても大丈夫という説明は根拠がないと思う。近隣の他社の事業である鉢伏山風力発電事業は先日、採算性の悪化を理由に撤退した。

事業者回答⑩

○　ご意見をいただき感謝。

ご発言者⑪

○　高時川ではベルク余呉スキー場の違法開発が行われて以降、濁水が発生。源流部にあたる地域で開発が行われれば、水や自然環境への影響が大きいと懸念。再エネに反対ではないが、別の場所で計画してほしい。

○　風車建設に伴う基礎について、コンクリートの体積が知りたい。

事業者回答⑪

○　風車の基礎部分は、現時点では平面では約 20m四方を想定。深さは、これからボーリング調査や地盤調査を行うため確定していないが、概ね 5m程度まで掘削することを想定。

（４）　事業者閉会挨拶

○　説明会の参加および質問・意見に感謝。本日いただいた質問・意見は今後の検討において真摯に取り扱い、地域の理解が得られるよう引き続き対応していく。

以上